

令和3年度 羽島市民病院運営委員会 次第

令和4年2月  
書面会議

議事

- (1) 委員長の選任について
- (2) 令和3年度決算見込みと中期経営計画2025の取り組みについて

# 羽島市民病院運営委員会委員名簿

(敬称略)

	役職	部 門	氏 名
1	委員	知識経験者	豊島 信征
2	委員		岩田 千里
3	委員		前田 京子
4	委員		林 由美子
5	委員	羽島市医師会の推薦があった開業医師	田中 吉政
6	委員		岩佐 充矩
7	委員		河合 清隆
8	委員		黒田 淳
9	委員		永木 正仁
10	委員	市及び病院代表	石黒 恒雄
11	委員		山田 卓也

## 羽島市民病院運営委員会委員長の選出

### 1 規定

羽島市民病院運営委員会規則（抜粋）

第5条 委員長は、委員の互選によって定め、会議の議長となる。

### 2 推薦

羽島市民病院運営委員会には、羽島市民病院運営委員会規則第5条の規定により、委員長を置くこととしております。また、同規則第4条の規定により、委員の任期は2年となっており、今回委嘱後初めての委員会となりますことから、本委員会にて委員長の選出を行う必要があります。

事務局として、委員長には行政経験も豊富であり、かつ委員会運営の一貫性の確保の観点から、羽島市副市長の石黒 恒雄 委員を推薦いたします。

### 3 選任

石黒 恒雄 委員を委員長とすることについて、「別紙1 書面協議書」によりご回答をお願いいたします。承認しない場合につきましては、別に推薦する委員の氏名をご記入ください。

令和 3 年度決算見込みと中期経営計画 2025 の取り組み

1. 令和 3 年度概要と中期経営計画 2025

令和 3 年度はコロナ禍により、いまだ先が見通せない中ではありますが、地域住民が住み慣れた地域で最後まで安心して暮らし続けることができる病院を目指し、「地域住民に寄り添い頼られる病院」「安心して明るく働きがいのある職場環境」「持続可能な病院運営体制」の 3 つを中期経営計画 2025 のビジョンとして掲げました。そのビジョンを達成するために 5 つの重点課題を設け、それぞれに施策を定めました。なお、重点課題には昨年度までの新公立病院改革プランで目指した方向性を踏襲した上で、新たに災害時における医療と新型コロナウイルス感染症を含む新興感染症への対応を追加しています。

今年度の実行推進体制は、施策ごとに実行推進メンバーを院内公募し、メンバーの企画提案に基づき、関係部署等と調整を図りながら取り組みを推進しています。

総務省から新たに示されることとなっている「(仮称)公立病院経営強化プラン」策定に向けたガイドラインの発出が延期されています。令和 3 年度は当院独自の取り組みとして、中期経営計画 2025 の目標年度を 2025 年度としています。ガイドラインが示された時点で、その内容に応じて見直しを行う予定です。

2. 令和 3 年度における取り組み

重点課題 1「地域包括ケアシステムへの貢献」

目的	地域住民が住み慣れた地域での暮らしを支えていくために
羽島市唯一の病院として、急性期医療・救急医療・回復期医療に加え、疾病予防、重症化予防、介護予防の役割を担っていきます。地域の医療機関の「かかりつけ医」の定着を推進するための連携強化を図り、役割分担を進め、薬局・歯科・介護福祉施設・ケアマネージャー・行政等との連携を推進していきます。	
令和 3 年度の主な取り組み	
内容	<p><b>病診連携及び病病連携の促進</b></p> <p>診療科・領域ごとに関係部署と連携してアプローチを検討し、地域医療機関向け広報誌「連携だより」の充実、羽島市内・外の開業医訪問、検査予約や精神科リエゾン外来<sup>1)</sup>、在宅療養患者の入院受け入れ体制などの案内周知を行いました。</p>
	<p><b>認知症患者へのアクティビティ・ケアの実施</b></p> <p>認知機能や身体機能の悪化の予防を目的としたアクティビティ・ケア<sup>2)</sup>活動を開始し、月 5 件程度入院中の介入から退院後のフォローまで実施しています。</p>
	<p><b>在宅医療・介護連携の促進</b></p> <p>新型コロナウイルス感染症に関するオンライン研修を開催し、地域の医師・看護師・歯科医師・薬剤師・ケアマネージャー・介護関係職種等の約 60 名に参加いただきました。</p>
	<p><b>常勤麻酔科医師の招聘と手術体制の整備</b></p> <p>10 月より常勤麻酔科医の配置に伴う手術体制の再整備を行いました。</p>
主な効果	<p>紹介患者数の増加(前年度比 200 人見込)</p> <p>新規連携登録医療機関:6 件増加</p>

## 重点課題2「市民との信頼関係の構築」

目的	地域住民に寄り添い頼られる病院であるために 「信頼性」「安心感」「共感」を与えられるよう患者サービスの充実、広報活動を推進します。
令和3年度の主な取り組み	
内容	<p><b>接遇・あいさつの向上</b> e-ラーニング<sup>3)</sup>による接遇研修の受講やあいさつキャンペーン(職員間におけるあいさつカード)による職員の意識変化の促進を図りました。</p> <p><b>患者駐車場の拡張整備</b> 自家用車の来院利便性向上のため、立体駐車場2階の駐車スペースを拡張しました。</p> <p><b>市民向けセミナーの開催</b> 市内公民館等に出向き、地域住民を対象とした研修会を実施しました。</p> <p><b>職員名札の変更</b> 患者及び職員間のコミュニケーションの円滑化に向けて、見やすさを重視した職員名札への刷新の準備をしています。</p>
主な効果	セミナー開催:実施件数4件・94人参加

## 重点課題3「自律型人材の育成」

目的	職員から信頼され明るく働きがいのある安心な職場環境とするために 職員同士の顔が見える関係づくり、多様性を受容し主体的に考えることができる自律型人材の育成を図ります。
令和3年度の主な取り組み	
内容	<p><b>職員用掲示板の設置</b> 職員間コミュニケーションを作る場として職員専用掲示板を設置し、中期経営計画の各施策グループの活動内容をはじめ、院内における取り組み等を紹介しています。</p> <p><b>医療系学生実習の協力ポスター作成・掲示</b> 次世代の医療職育成を目的として、ポスターの作成掲示を行いました。</p> <p><b>人材育成に関するニーズの把握</b> 次年度以降の教育計画の立案に向けて、各部門の認定資格取得者及び研修ニーズの把握を行いました。</p> <p><b>多職種ミーティングの開催</b> 新任管理職を中心に管理職研修を受講させるとともに、マネジメント方法の意見交換や各部署における人材育成に関する姿勢等について協議を行い、意識の共有を図りました。</p> <p><b>職員満足度調査の実施</b> 職場づくりにおける課題の把握、認め合う職場環境にするための活動内容の評価に向けて職員満足度調査を本年度末に実施予定です。</p>
主な効果	看護師特定行為研修受講決定者1名、認定看護師研修受講決定者1名

## 重点課題4「健全な病院経営」

目的	持続可能な病院運営を行っていくために
必要な医療者の確保に努め、診療圏のニーズや診療体制の変化にあわせた、広域的な病病連携を図っていきます。継続的な経営改善活動の推進、コスト意識をもって効率的・効果的な運営体制を構築し、持続可能な経営を目指します。	
令和3年度の主な取り組み	
内容	<p><b>医師の確保</b> 7月放射線科1名、10月麻酔科1名、更に1月呼吸器内科1名と外科1名の常勤医師を採用しました。また、非常勤医師は5月精神科リエゾン外来1名、7月手術センター1名、10月感染管理1名を招聘しました。</p>
	<p><b>患者数の確保</b> 病病連携・病診連携の活動を通して地域の医療・介護・福祉・行政との連携を深め、入院・外来患者数の確保に努めました。</p>
	<p><b>医薬品費・診療材料費の削減</b> 後発医薬品への更なる切り替え、バイオ医薬品<sup>4)</sup>のバイオシミラー<sup>5)</sup>への変更、他病院の購入価格を比較できるシステムを活用し購入単価の引き下げに努めました。</p>
	<p><b>外部委託の見直し</b> 病院寝具契約の見直しによるコストの削減、CSセット<sup>6)</sup>の導入による患者の利便性の向上と業務の効率化を図りました。</p>
	<p><b>業務改善の推進</b> 時間外勤務の削減に向けて、職員の意識改革や夜勤に関する勤務体制の変更、タスクシフト・タスクシェアリング<sup>7)</sup>の可否について検討しています。</p>
主な効果	常勤換算医師数の増加(前年度比5.3人) 医薬品費、診療材料費、委託契約の見直しによる削減見込み額:約3,500千円

## 重点課題5「災害時における医療・新興感染症対策等の政策医療の確立」

目的	災害時・新興感染症等の発生時に地域に必要な医療提供をするために
災害を想定した防災訓練等の実施により、必要な体制の整備を図ります。新型コロナウイルス感染症等の新興感染症への対応可能な体制を確立していきます。	
令和3年度の主な取り組み	
内容	<p><b>災害・防災訓練等の充実</b> 災害対策マニュアルの適時見直しを図るとともに、有事に向けた職員への周知(「ZEROから始まる災害対策」)に取り組んでいます。</p>
	<p><b>新興感染症発生時の対応可能な体制の確立</b> 5月より新型コロナウイルス感染症対応病床を増床するとともに、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、デジタルサイネージ<sup>8)</sup>の購入や検査の対応等、感染防止に努めました。また、指定感染症院内認定看護師の育成、意識啓発ポスターの掲示や特定感染症病棟におけるナースアシスタントの業務を開始しました。</p>
主な効果	指定感染症院内認定看護師数:7名

### 3. 収支状況

(単位 百万円)

		令和2年度	令和3年度	前年度
		決算	決算見込み	増減
収入	1. 医業収益 (A)	4,138	4,383	245
	うち、入院収益	2,573	2,794	221
	うち、外来収益	1,279	1,277	2
	2. 医業外収益 (B)	1,493	1,386	107
	経常収益 (A) + (B) (C)	5,631	5,768	137
支出	1. 医業費用 (D)	5,338	5,480	142
	うち、給与費	3,273	3,363	90
	うち、材料費	724	753	29
	うち、経費	1,018	1,039	21
	2. 医業外費用 (E)	223	256	33
	経常費用 (D) + (E) (F)	5,561	5,736	175
損益等	医業損益 (A) - (D) (G)	1,200	1,098	102
	(参考) 医業損益 + 新型コロナ補助金	249	289	40
	経常損益 (C) - (F) (H)	70	32	38
	特別損益 (J) - (K) (I)	19	26	7
	1. 特別利益 (J)	121	3	118
	2. 特別損失 (K)	140	29	111
	純損益 (H) + (I)	52	6	46

注) 令和2年度より感染症対応として一部病床を休止しており、医業外収益に逸失収益等に相当する新型コロナウィルス感染症関連補助金(R2:951百万円、R3見込み:808百万円)を含んでいます。  
百万円単位表記により計が一致しない場合があります。

### 4. 主要経営指標

	令和2年度	令和3年度	前年度
	決算	決算見込み	増減
経常収支比率	101.3%	100.6%	▲0.7 ポイント
医業収支比率	77.5%	80.0%	2.5 ポイント
給与費対医業収益比率	79.1%	76.7%	▲2.4 ポイント
材料費対医業収益比率	17.5%	17.2%	▲0.3 ポイント
病床利用率(271床)	56.4%	58.0%	1.6 ポイント
1日平均入院患者数	153人	157人	4人
1日平均外来患者数	421人	416人	5人
入院単価	46,113円	48,674円	2,561円
外来単価	12,516円	12,674円	158円
紹介患者数	5,300人	5,500人	200人
逆紹介患者数	5,335人	5,600人	265人
常勤換算医師数(年平均)	38.2人	43.5人	5.3人

## 5 . 全体を通しての分析・まとめ

### 新型コロナウイルス感染症への対応

現在のコロナ禍における当院の役割として、岐阜県からの要請を受け、受入病床の確保など公立医療機関としての責務を担っており、5月には受け入れ病床を増床して対応にあたってきました。当院では中期経営計画 2025 の重点課題の1つに「災害時における医療・新興感染症対策等の政策医療の確立」を掲げ、現在、新興感染症である新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ体制の充実に取り組んでいます。

### 令和3年度の経営状況

病院の経営環境については、先が見通せない益々厳しいものとなっている中、収益のうち、入院収益は入院患者数の増及び入院単価の向上により、前年度と比較して増加を見込んでいます。外来収益はほぼ同額で、医業収益は 245 百万円の増加の見込みとなりました。費用については、医師の増、入院患者数の増等による給与費、材料費等の増加により、医業費用は 142 百万円の増加を見込んでいます。

新型コロナウイルス感染症関連補助金の減少の見込みにより、経常損益は 32 百万円、純利益 6 百万円の計上を見込んでいます。

### 医師の確保状況

当年度は麻酔科医及び放射線科医、呼吸器内科医、外科医の常勤医師の採用にいたりました。2024 年度より時間外労働の上限規制を中心とした医師の働き方改革への対応や年度替わりの医師の大学医局による異動への対応も含め、次年度以降についても医師の確保に努め、診療体制の強化を図ります。

### まとめ

コロナ禍における影響は先が見えない中、当該感染症患者への対応を継続し、地域の基幹病院として救急医療・急性期医療体制の維持、そして今後更に増していく高齢者医療・回復期機能需要へ対応していくことは当院の使命と考えております。

そしてウィズコロナ、ポストコロナに向けて引き続き、地域住民や地域医療機関との信頼関係を深め、地域から求められる医療に対応できる医療提供体制の確保、地域包括ケアシステムへの貢献に努めます。



## 語句説明

- 1) 精神科リエゾン外来 ……リエゾンとはフランス語で「連携」「連絡」という意味で、内科や外科など他科より紹介を受け、精神的な問題を抱える患者さんをサポートするため、科と科、他部署をつなぐ外来のことである。
- 2) アクティビティ・ケア ……アクティビティ・ケアの役割は、予防としての役割、機能訓練としての役割、生活の質の維持としての役割がある。認知症に対するアクティビティ・ケアの活動としては運動、音楽、趣味、手芸、ゲームなどがある。
- 3) eラーニング ……パソコンやモバイル機器、DVDなどの「情報技術」を利用して行う学習方法の総称で、近年ではインターネット経由の学習方法を「eラーニング」と表現する場合もある。
- 4) バイオ医薬品 ……バイオテクノロジーを用いて創製される医薬品で、人間の体内にある生体分子(酵素、ホルモン、抗体など)を応用して作られるものである。
- 5) バイオシミラー ……「バイオ医薬品」の特許が切れたのち、先行バイオ医薬品と同等・同質の品質、安全性、有効性を有する医薬品として、異なる製造販売業者によって開発された医薬品。「バイオ後続品」ともいわれる。
- 6) CS セット(ケア・サポートセット) ……病院の入院生活に必要な衣類・タオルや紙おむつなどの日常生活用品を日額定額制等でレンタルできるサービスをいう。
- 7) タスクシフト・タスクシェアリング ……タスクシフトとは業務の一部を他の職種に任せること。タスク・シェアとは、業務を複数の職種で分け合うことを指す。医師から看護師や薬剤師へのタスクシフトやタスクシェアリングが政策的に推進されている。
- 8) デジタルサイネージ ……液晶ディスプレイ等を使って映像や文字を表示するシステムのことである。